

## 阿蘇山の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター

＜噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引き上げ＞

阿蘇山では、23 日夜から火山性地震の回数が増加し、本日（25 日）にかけて非常に多い状態となっています。また、本日実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 1,900 トン（前回 9 月 19 日、500 トン）と多い状態となっています。このことから、中岳第一火口の火山活動は高まっており、中岳第一火口から概ね 1 km の範囲に大きな噴石を飛散させる噴火が発生する可能性がある判断し、25 日 15 時 40 分に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2（火口周辺規制））を発表し、噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引き上げました。

噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）への引き上げは平成 23 年（2011 年）5 月 16 日以来です。

### 【防災上の警戒事項等】

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

### ○ 活動概況

阿蘇山では、23 日夜から火山性地震の回数が増加し、本日（25 日）にかけて非常に多い状態（23 日 45 回、24 日 2,265 回、25 日 15 時現在 1,323 回。回数は速報値。）となっています。

本日実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 1,900 トン（前回 9 月 19 日、500 トン）と多い状態となっています。また、9 月 24 日に実施した現地調査では、湯だまりの量は 3 割（前回 9 月 17 日、4 割）で、湯だまりの温度は 76 度（前回 9 月 17 日、76 度）とやや高い状態でしたが、火口内及び周辺の状況に特段の変化は認められませんでした。

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められません。

---

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



図1 阿蘇山 中岳第一火口の状況

- ・湯だまり量 24日3割、17日4割
- ・湯だまりの温度 24日76度、17日76度

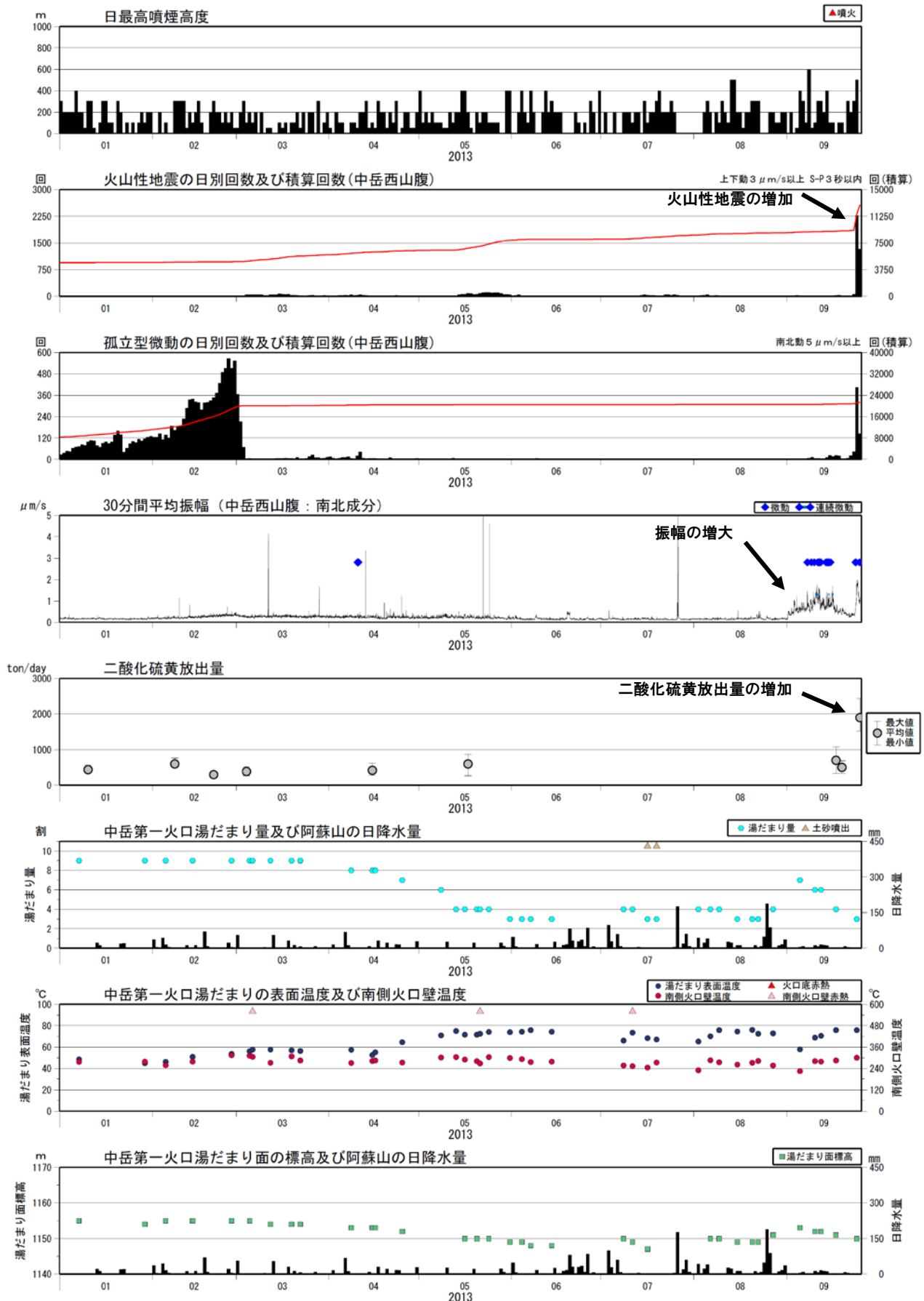


図 2 阿蘇山 火山活動経過図 (2013 年 1 月～2013 年 9 月 25 日 15 時)

- ・ 9 月 23 日から火山性地震が増えました。
- ・ 9 月 7 日から 16 日にかけて、火山性微動が発生し、振幅がやや増大しました。
- ・ 本日 (25 日) の現地調査では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 1,900 トンと増加しました。



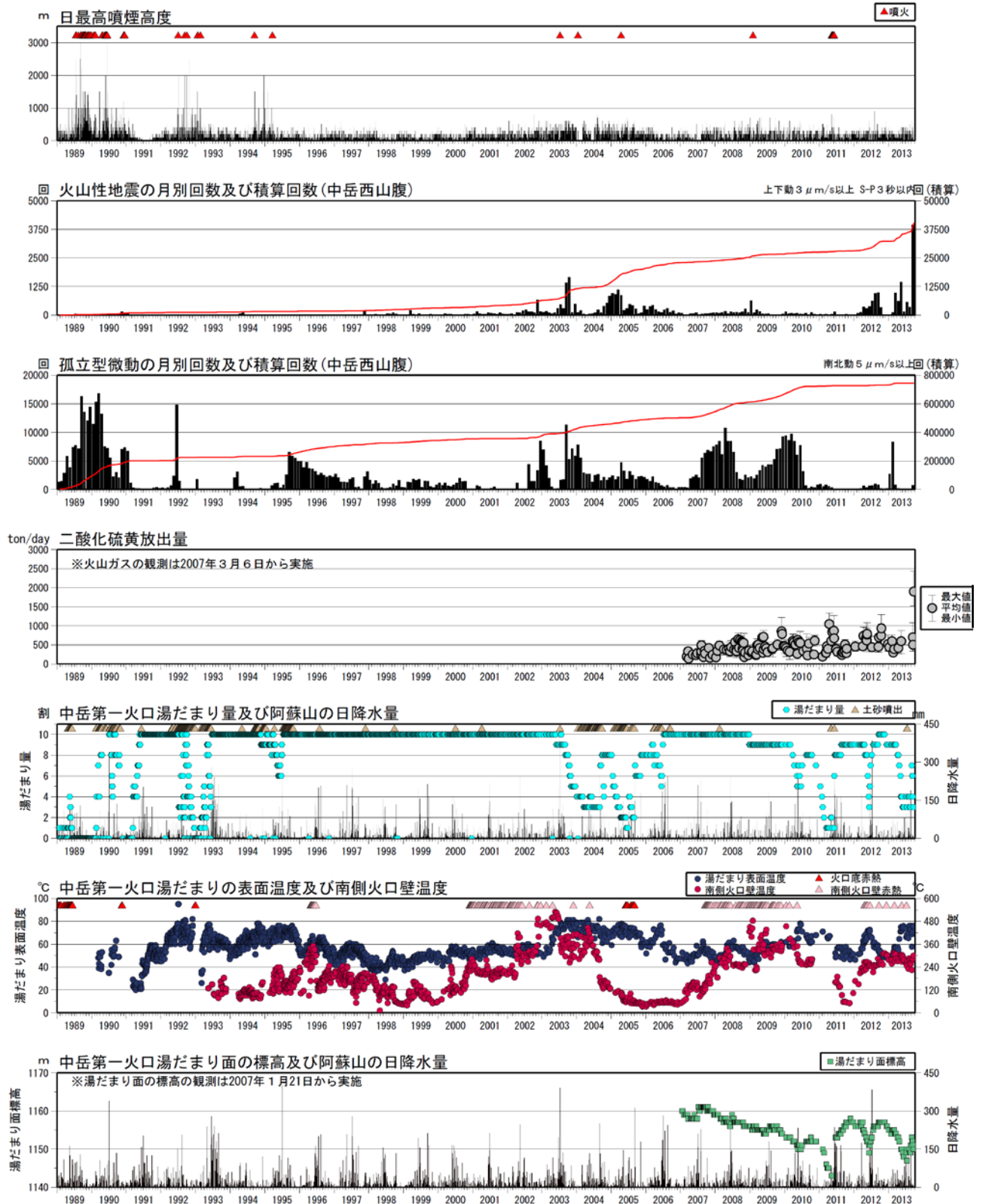


図3 阿蘇山 火山活動経過図 (1989年1月～2013年9月25日15時)

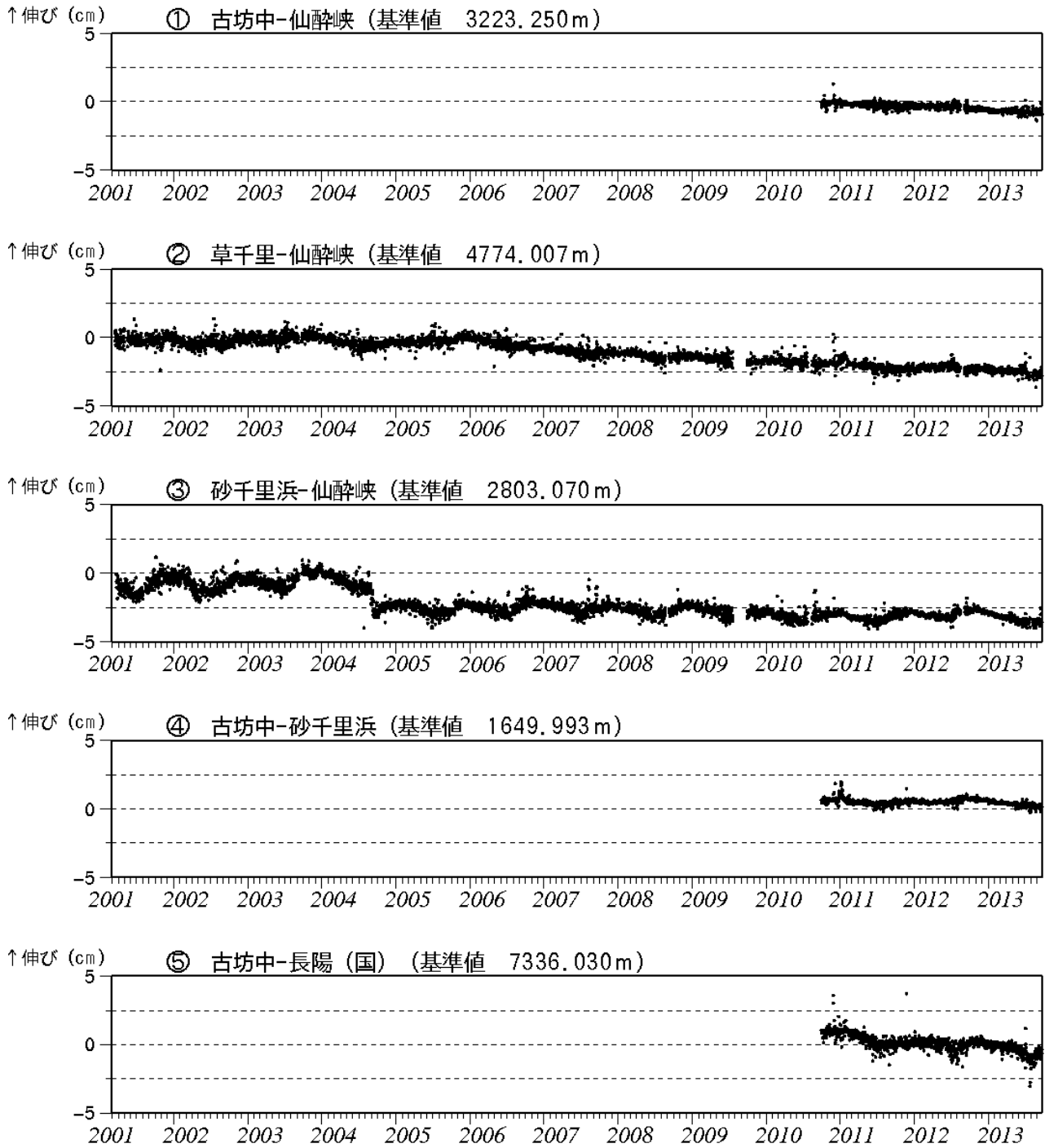


図4 阿蘇山 GPS連続観測による基線長変化 (2001年1月~2013年9月25日)  
火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

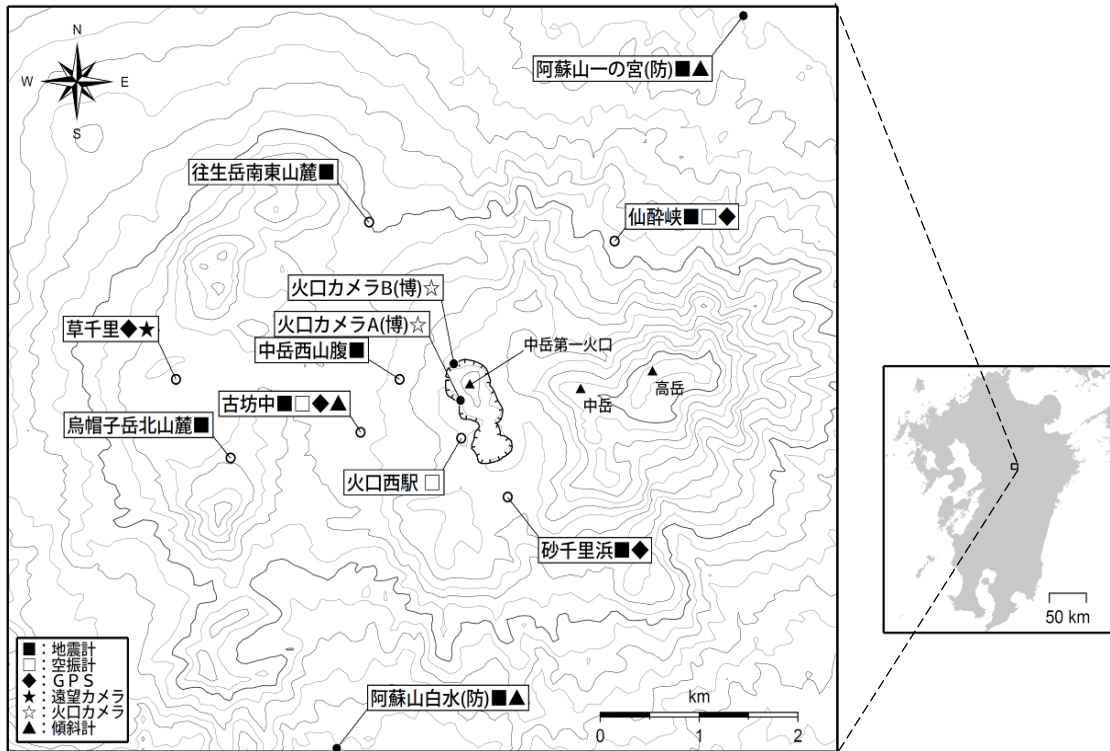


図 5 阿蘇山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(京)：京都大学、(国)：国土地理院

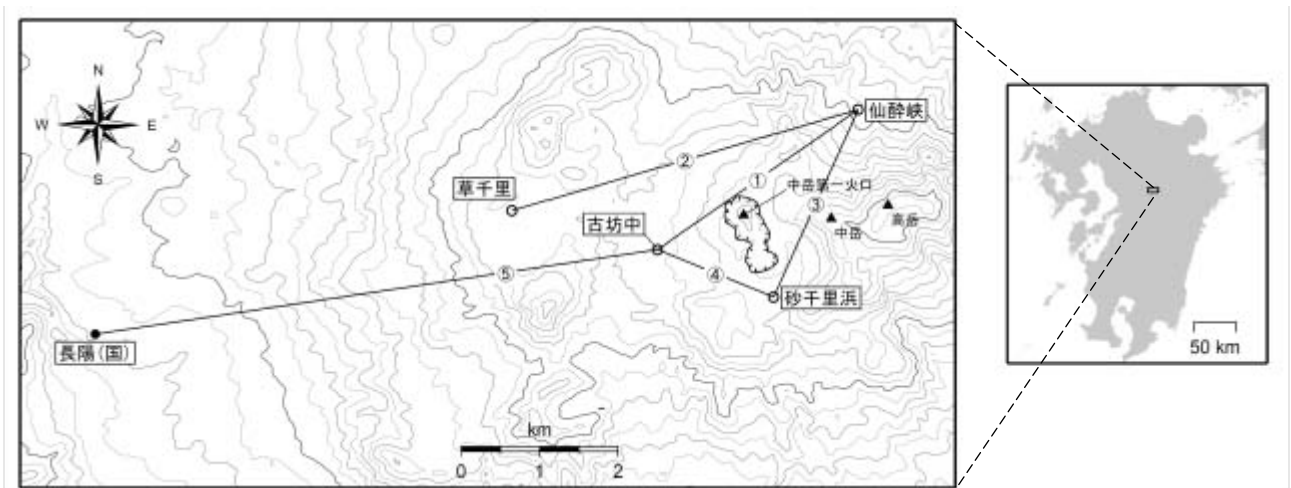


図 6 阿蘇山 GPS 連続観測点と基線番号

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(国)：国土地理院